

猪谷千春様

1931年5月20日生まれ。

立教大学、アメリカ合衆国のダートマス大学卒業。1956年のコルティナダンペッツォ・オリンピック冬季競技大会のアルペンスキー男子回転で2位。アルペンスキーで日本人として初めてオリンピック入賞を果たす。1960年のスコーパーレー大会を最後に国際舞台から去り、1962年から強化コーチとなった。1982年から国際オリンピック委員会IOC委員を務め、2005～09年同副会長、2012年同名誉委員。1988年紫綬褒章受章。



日経スペシャル

私の履歴書

毎週木曜日
夜11時00分～11時30分

猪谷千春(国際オリンピック委員会名誉委員)

日本に競技スキーが根付いていなかった幼少期から、父の厳しい指導のもと、スキーの特訓に励み、1956年、イタリアのコルティナダンペッツォで開催された冬季オリンピックスキー回転競技で、銀メダルを獲得、日本人初の冬季オリンピックメダリストとなる。現役引退後はビジネスの世界へと転身し、成功を取める。51歳で、IOC委員に就任し、1988年の長野五輪招致に尽力。その後もオリンピックの仕事に関わり、スポーツの普及とオリンピック精神の認知に努める。そんな猪谷のオリンピックへの思いに迫る。

第1話(1月22日放送)
「日本人初の冬季五輪メダリスト」

1931年、国後島でスキー一筋に生まれた猪谷は2歳の時にスキーの才能を見出され、スキーの英才教育を施される。1945年、経験者のかえ、14歳の猪谷は、手作りの練習用ゲレンデでスキーの特訓に励み、独自の技術を習得。17歳の時に、全日本選手権で初優勝を飾る。1952年、猪谷はオリンピック代表となり、オスロ冬季五輪に出場。大回転20位、滑降24位、回転11位に終わるが、当時のトップ選手の滑り方が、自らが手探りで見つけた技術と同じだと知り、自信を持つ。そして猪谷は4年後のオリンピックを目指し、技術向上のため、スキーが盛んなアメリカに留学する。1956年、猪谷は2回目の冬季オリンピックに出場。迎えた回転種目当日。霧が濃い、悪条件の中、迷いはなくスタートから全力で飛ばし、銀メダルを獲得。日本人初の冬季五輪のメダリストとなる。

朝日新聞

2月1日

猪谷、回転で二位

優勝はザイラー(オース)

「コルチナダンペッツォ」三十一日朝「朝日」冬五輪スキー競技は三十一日、三八分回からの九人の選手参加の下に、日本の代表猪谷千春はオーストリアのザイラーに次ぎ、二位に滑り降り、銀メダルを獲得した。オーストリアのザイラーは、オーストリアのスキー界の第一人者として知られる。猪谷は、オーストリアのザイラーに次ぎ、二位に滑り降り、銀メダルを獲得した。猪谷は、オーストリアのザイラーに次ぎ、二位に滑り降り、銀メダルを獲得した。

朝日新聞東京本社
社址: 東京都千代田区千代田 1-3-1
電話: 03-5561-2111
FAX: 03-5561-2111
発行部数: 1,000,000部

2月1日
朝日新聞

毎月掲げて大きく読む
三和横立
三和銀行

千島生れの千島
13歳で24歳大

対米追隨の
日中復交
日中復交の
対米追隨の